

じんま疹

荒木医院 清水友子 先生

5～6人に1人は経験するといわれるじんま疹、突然かゆみを伴う赤くふくれた発疹が出現し、通常数時間で跡かたもなくきえます。

これらの症状は、皮膚の浅いところの血管に、刺激物質(ヒスタミン)が作用して、血管を拡張させたり、血管内の血しょうを漏出させることにより起こります。

原因としては、物質的なもの(皮膚をかくこと、皮膚の圧迫、皮膚と冷たい物や刺激物との接触、発汗、日光)、食品、薬物、虫刺され、感染症、精神的ストレスなど様々です。

治療は原因を除去すればよいわけですが、一ヶ月以内の経過で治る急性じんま疹を除いては、原因を見つけ出すことが困難な場合が多く、現実的には抗ヒスタミン剤や抗アレルギー剤などの薬剤による対症療法が中心になります。これらの薬には、ほかの薬剤と併用してはいけないものや眠気をを伴うものがあるので、服用する時には注意が必要です。

また慢性化した場合には、次第に薬剤を減量するなどして根気よく治療を続けることが大切になります。症状が重い場合には、ステロイド剤が一時的に使われることもあります。

個々の発疹が数日間続く場合、発熱や関節痛を伴う場合、治ったあとに色素沈着を残す場合などは、ほかの病気が隠れていることがありますので、詳しい検査が必要になります。